

レスポンシブル・ケア報告書  
2024  
(2023年度活動報告)

地球の恵みを、社会の望みに。

 **エアウォーター・パフォーマンスケミカル**



## Contents

トップメッセージ	1
RC活動の取り組み	2
労働安全衛生	4
環境保全	4
保安防災	6
物流安全	6
品質保証	7
化学品・製品安全	7
社会との対話	8

### レスポンシブル・ケア

化学物質を扱うそれぞれの企業が、化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄・リサイクルに至る全ての過程において、自主的に「環境・安全・健康」を確保し、活動の成果を公表し社会との対話・コミュニケーションを図る活動を『レスポンシブル・ケア (RC) 』と呼んでいます。

### 編集方針

エア・ウォーター・パフォーマンスケミカル株式会社は、発足して4年目を迎えました。当社はレスポンシブル・ケア (RC) を経営の重要課題と認識し、「労働安全衛生」「環境保全」「保安防災」「品質保証」「化学品・製品安全」「物流安全」「社会との対話」を7本柱としたRC活動を推進しています。

「レスポンシブル・ケア報告書2024」は、当社経営方針およびRC基本方針に加え、当社の取り組んでいるRC活動について広く広報する事、およびステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを促進することを目的として作成しました。

当社についてご理解を深めていただければ幸いです。

### レスポンシブル・ケア報告書の対象範囲

報告対象期間	2023年4月～2024年3月
報告対象範囲	全社
発行年月	2024年11月
問い合わせ先	エア・ウォーター・ パフォーマンスケミカル株式会社 〒212-0014 川崎市幸区大宮町1310番 TEL：044-540-0110 FAX：044-540-0109
ホームページ	<a href="https://awpc.co.jp/">https://awpc.co.jp/</a>

## トップメッセージ



代表取締役社長  
工藤 公敏

2021年10月1日にエア・ウォーター・パフォーマンスケミカル株式会社が発足し、さらに2023年4月、エア・ウォーター・ベルパール株式会社が合流いたしました。

当社は、その企業活動において、エア・ウォーターグループサステナブルビジョン「地球、社会との共生により循環型社会を実現する」で定めた2050年の目指す姿へ向けて環境保全や地域社会の安全確保に努力し続けています。

この「レスポンシブル・ケア報告書」は、私たちのレスポンシブル・ケア活動を総括し、ステークホルダーの皆様にも広くご理解を深めていただける資料としてまとめました。

これまで培ってきた「ものづくり」の力に加え、新たな価値を創造するイノベーションの力によって、お客様の幅広いニーズにお応えし、持続可能な社会の発展に貢献し続けるために既存製品の安定的な提供と新製品を通し新たな機能を提供できる会社を目指します。この新たな挑戦に、何卒ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 経営方針

創業者精神をもって

空気、水、そして地球にかかわる

PHILOSOPHY

事業の創造と発展に、英知を結集する

## 会社概要

会社名	エア・ウォーター・パフォーマンスケミカル株式会社株式会社
所在地	川崎市幸区大宮町 1310 番
創立	2021年7月1日
資本金	100百万円
事業内容	石油化学製品、無機化学工業製品、炭素製品、食品機能材料等の開発、製造及び販売
従業員数	約700名
株主構成	エア・ウォーター株式会社100%
売上	約335億円（2024年3月期）
事業拠点	本 社 川崎市幸区大宮町 1310 番 ミューザ川崎セントラルタワー 川崎工場・川崎研究所 川崎市川崎区千鳥町 1番2号 湘南工場・湘南研究所 神奈川県平塚市須賀 2700 番地 静岡工場 静岡県御前崎市池新田7950 番地の2 防府工場 山口県防府市鐘紡町3番1号 大阪支店 大阪市中央区南船場4丁目4番21号 TODA BUILDING心斎橋9F

## RC基本方針

エア・ウォーター・パフォーマンスケミカルは、レスポンシブル・ケア（RC）を経営の重要課題と認識し、「労働安全衛生」「環境保全」「保安防災」「品質保証」「化学品・製品安全」「物流安全」「社会との対話」を7本柱としたRC活動を推進します。

法令遵守はもとより、適切な経営資源を投入し、継続的な改善を図ることにより、人々の生活の質の向上と持続可能な社会の実現に貢献します。

### 労働安全衛生方針

- 『安全をすべてに優先させる』ことを社是とし、従業員全員参加で、無事故・無災害の実現を追求します。
- 作業環境を含め快適な職場環境の形成に努め、従業員の心と身体の健康増進に取り組みます。
- 安全衛生に関わる関係法令・作業手順の遵守と安全衛生教育の徹底により安全文化を醸成し、安全・安定操業を維持します。
- 安全衛生リスク低減と、管理体制の継続的改善を図ります。

### 環境保全方針

- 製品の開発から廃棄に至るまでの全てのライフサイクルにわたって、環境負荷の持続的減に取り組みます。
- 環境関連の法律・規制を遵守します。  
必要に応じて自主基準を制定し、環境保護に取り組みます。
- 事業活動に伴う環境影響に配慮し、地球環境対策や環境に影響を与える事故・トラブルの予防対策を推進し、信頼感のある事業づくりを目指します。

### 保安防災方針

- 事業場の火災、爆発、及び化学物質流出事故の防止、自然災害対策に努めます。
- 保安防災に関わる関係法令等を遵守し、リスク低減活動を推進します。

### 品質保証方針

- お客様から『ありがとう』と言っていただける品質の製品・サービスを提供します。
- 品質管理の徹底と品質の継続的改善に取り組み、顧客満足度の向上を目指します。
- 製品・サービスに関するコンプライアンスを徹底します。
- 食品用機能製品の安全性確保により「食の安全」に貢献します。

### 化学品・製品安全方針

- 研究・開発、生産・物流を含む全てのプロセスにおいて、取り扱う化学物質の危険性、有害性、環境影響の情報把握とリスク評価に努め、人々の健康の確保と環境負荷の低減を図ります。
- 関係法規制及び業界基準に基づく製品含有化学物質管理体制を構築し、ステークホルダーの環境・安全・健康への配慮と適切な情報提供に努めます。

### 物流安全方針

- 製品の輸送、流通におけるリスクを低減し、物流安全確保を推進します。
- 関係法令およびその他の要求事項を遵守し、製品輸送の安全確保に努めます。

### 社会との対話方針

- 情報の開示と対話を通して、ステークホルダーとのコミュニケーションに努めます。

## RC活動サイクル

RC基本方針を実践するために、年度の全社RC目標を定め、各職場で具体的な活動を策定しミッションカードに落とし込んで活動しています。経営会議、リスク管理委員会、内部監査講評会等の定例の全社会議で日々の活動の進捗や課題を確認し、活動内容を見直すことでPDCAサイクルを回し、継続的改善を図っています。

また、毎年内部監査チームを編成して、7つのRC活動に対するRC内部監査を実施し、結果を経営陣に対して内部監査講評会で報告しています。指摘があった場合は、是正の進捗を監視、フォローアップ監査を実施して、確実にリスクを低減しています。



## SDGsへの取り組み

2050年にエア・ウォーターグループが目指す姿“サステナブルビジョン”では、「地球、社会との共生により循環型社会を実現する」ことを掲げています。

当社でも2030年をマイルストーンと位置づけ、エア・ウォーターグループが掲げる「地球の恵みを、社会の望みに。」をSDGsコミュニケーションコンセプトに、事業活動を通じて持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取り組みを進めています。

事業活動を通じて、循環型社会を実現すること（環境負荷をゼロ、地球環境の再生など）、地域社会や顧客から選ばれ続けること、働く人々のWell-beingを実現することなどを目指します。



気候変動への対応	温室効果ガスの排出を抑制し脱炭素社会の実現に貢献する
資源循環の実現	環境負荷を低減させた資源循環型社会の実現に貢献する
環境影響物質の削減	地球環境の保全により人と自然が共存できる社会の実現に貢献する
地域社会との共存共栄	イノベーションにより豊かで安全なスマート社会の実現に貢献する
ウェルネス（豊かな暮らし）	医薬、食で健康長寿社会の実現に貢献する
働く人々のWell-beingの実現	多様な働き方で誰でも活躍できる場を提供する

## 2023年度全社RC目標と達成状況

2023年度はRC各分野の活動を着実に進め、特に労働安全衛生と物流安全の分野で改善が見られました。2024年度の目標は、2023年度 RC 活動の実績から継続すべき活動を抽出、発生したトラブルなどの分析結果、法律の改正など社外からの要求を踏まえたうえで設定しました。本計画を着実に実施し、その継続的改善を進めてまいります。

RC活動	2023年度 目標	重点施策	2023年度 実績	評価	2024年度 目標	2024年度 重点施策
1. 労働安全衛生	・休業災害ゼロ	・不安全行動の撲滅 ・交通安全教育の実施 ・職場環境改善の推進	・休業・不休業災害の発生なし	一部達成	・休業災害ゼロ ・通勤途上・業務中の交通事故ゼロ ・高ストレス者・予備軍の低減	・先取安全（HH、KY、RA）の推進 ・交通安全教育の実施 ・職場環境改善の推進
	・通勤途上・業務中の交通事故ゼロ		・交通事故なし	達成		
	・高ストレス者・予備軍の低減		・高ストレス者9名減(1.6%減)、 予備軍14名増(2.4%増)	一部達成		
2. 環境保全	・環境事故・重トラブルゼロ	・新規/4M変更時の法令順守確認 の徹底 ・環境管理体制の整備	・環境事故・重トラブルなし	達成	・環境事故・重トラブルゼロ ・エネルギー原単位 前年度比1%以上減 ・SDGsロードマップ2024年度目標の 達成	・新規/4M変更時の法令順守確認の徹底 ・環境管理体制の運用
	・エネルギー原単位 前年度比1%以上減		・エネルギー原単位 前年度比 1.1%減	達成		
	・SDGsロードマップ2023年度目標 の達成		・17項目中、9割達成	達成		
3. 保安防災	・保安事故・重トラブルゼロ	・輸送業者の指導・監視強化 ・本社を含む各事業所毎に対応した 施策立案	・保安事故1件発生	未達	・火災事故ゼロ ・保安重トラブルゼロ ・自然災害対策の見直し	・5Sの徹底 ・災害発生リスクの全抽出と対策の完遂 ・地震・津波BCPの見直し
	・自然災害対策の策定		・富士山噴火BCP見直し策定済	達成		
4. 品質保証	・品質重クレーム、重トラブルゼロ	・輸送業者の指導・監視強化 ・異物混入防止対策の徹底 ・原因の深掘りと再発防止の徹底	・品質重クレーム1件、 重不適合3件発生	未達	・品質重クレーム、重不適合ゼロ	・輸送業者、外部委託先の指導・ 監視強化
5. 化学品・ 製品安全	・国内外化学物質法規制対応での 重トラブルゼロ	・新規/4M変更時の法令順守確認の 徹底 ・化学物質管理体制の整備	・化学物質法規制対応での重トラブルゼロ	達成	・国内外化学物質法規制対応での 重トラブルゼロ	・法改正への確実な対応 ・化学物質管理体制の運用
6. 物流安全	・製品物流における 環境・保安重トラブル、 荷役災害ゼロ	・輸送業者の指導・監視強化	・製品物流での環境・保安重トラブル、 荷役災害なし	達成	・製品物流における環境・保安 重トラブル、荷役災害ゼロ	・法改正への確実な対応
7. 社会との対話		・RC活動の情報公開 ・地域との対話、地域貢献活動の 継続	・社内向けRC報告書発行、 社外向けにHP改訂済み	達成		・RC活動の情報公開 ・ステークホルダーへの 迅速な通報の徹底
			・秋祭り開催、自治会との面談、 地域貢献活動継続	達成		

2023年度のトピック

2023年度の当社での休業・不休業災害の発生は、ありませんでした。不安全行動の撲滅にむけて、従来より取り組んでいる活動に加え、新たな取り組みとして、「安全専門委員会」による危険の芽を摘む活動と「経営層パトロール・工場長相互パトロール」を開始しました。

安全衛生活動

不安全行動の撲滅にむけた取り組み

■安全巡視の強化

2023年度より、安全衛生委員によるパトロールに加え、経営層による各工場のパトロール、工場長の相互パトロールを実施しています。また安全衛生委員会の下部組織として「安全専門委員」を組織し、毎月テーマを決めてパトロールを行っています。この危険の芽を摘み取る活動を通して、安全意識の向上に取り組んでいます。

■安全教育

社外講習の他、階層別安全教育プログラム、危険予知トレーニング（KYT）、未熟練者安全教育、エイジフレンドリー教育を社内で行い、安全意識の向上を図っています。また実際の現場で起きる労働災害リスクを再現し、恐怖感、危険を体感することで、危険予知能力（KY）を養い、安全意識の向上、安全対策の構築・指導に役立てることを目的として、2022年度より危険体感機器を用いた安全教育を開催しています。

2023年度 危険体感機器を使用した安全教育



踏み・転倒



巻き込まれ

安全表彰

1年間の取り組みの結果、ゼロ災（休業・不休業災害ゼロ）を達成した職場や、他の模範となる功労が認められる職場に対しては表彰を行い、さらなる安全意識の高揚や安全水準の向上を目指しています。

労災発生状況

2023年度は、当社従業員の休業災害はゼロ件となりました。2023年度の新たな取り組みに加え、従来より取り組んでいる、5S（整理、整頓、清掃、清潔、しつけ）、リスクアセスメント、ヒヤリ・ハット、安全教育、安全行動調査の活用、トラブルカレンダーの運用などによる不安全箇所の改善と不安全行動の防止の成果が表れており、引き続き労働災害の撲滅に取り組んでいきます。



衛生活動

毎年、ストレスチェック、年2回の定期健康診断、化学物質等を特殊健康診断、作業環境測定を実施しています。夏取り扱うための場には作業場の暑さ指数（WBGT値）を測定して、熱中症を予防しています。また、運動機能維持の啓蒙のため、湘南・静岡工場では衛生週間行事の一環でロコモ度テスト（ロコモティブシンドローム危険度評価）を実施しています。

2023年度のトピック

環境事故・重大トラブルゼロを達成することができました。また、エネルギー原単位は前年度比で1.1%減り、目標の1%以上減を達成しました。

2023年度は、省エネルギー推進のため、社内の連絡会や要領の制定など、環境管理体制の整備を進めました。また、作業や設備を変更する際の環境関連法規の順守・徹底を図りました。

環境保全の取り組み

当社は環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001を取得しています。また「RC活動・事業活動をSDGsと一体化させて取り組む」をSDGsテーマとして、毎年SDGsロードマップを作成し、事業活動を通して温室効果ガスの削減、省エネルギー、廃棄物の削減、水資源の保全等、SDGs貢献につながる環境保全活動を継続的に推進しています。

■環境管理体制の整備

当社は、事業活動の全てにおいて、地球環境保全と低炭素型社会を目指したエネルギーの有効利用に努め、省エネルギーを推進し、同時に製品を通じ循環型社会構築に資することを基本的な取り組み方針としています。

2023年度は、省エネルギー推進のため、実務者レベルでの情報共有と、活動推進のための意見交換等の機会として、社内の連絡会を設け、運用を開始しています。

■新規/4M変更時法令順守確認

環境保全のため、新しい設備の導入時や4M変更時の法令チェックリストを作成し、法令順守確認の徹底に努めています。

事業活動に伴う環境負荷の全体像

当社は、事業活動の中で多くのエネルギー、化学物質、水資源などを使用しています。これらのインプットとアウトプットを把握し、化学物質の再利用や生産性を上げる取り組みにより、生産に関わる環境負荷の低減を目指して環境管理活動を推進しています。

インプット		アウトプット			
エネルギー使用量		地球環境		水環境	
灯油	982 kL	CO <sub>2</sub>	42,865 t	公共用水域(海)	11,252 千m <sup>3</sup>
A重油	234 kL	大気環境		公共用水域(河川)	235 千m <sup>3</sup>
LPG	40 t	SO <sub>x</sub>	1 t	COD	73 t
都市ガス	5,255 千Nm <sup>3</sup>	NO <sub>x</sub>	9 t	窒素	30 t
熱	25 kGJ	ばいじん	1 t	りん	1 t
電気	48,731 千kWh	VOC	1 t	PRTR対象物質	1t
その他燃料	194 kL	PRTR対象物質	1t	下水道	196 千m <sup>3</sup>
水資源使用量		土壌環境		廃棄物	
海水	9,684 千m <sup>3</sup>	PRTR対象物質	排出なし	発生量	3,593 t
淡水	2,532 千m <sup>3</sup>			うち再生資源化量	2,337 t
				PRTR対象物質	825t

当社事業活動  
研究開発  
資材調達  
製造  
物流

## 温室効果ガス（GHG）削減にむけた取り組み

エア・ウォーターグループでは、2050年に自社の事業活動でのカーボンニュートラルを達成するとともにサプライチェーン全体でも脱炭素化を進めるべく、2030年度にCO<sub>2</sub>排出量（Scope1+Scope2）を2020年度対比30%削減するという目標を掲げています。

### GHGプロトコルについて

GHGプロトコルとは、温室効果ガス（GreenHouse Gas：GHG）の排出量を算定・報告する際の国際的な基準です。サプライチェーンにおけるGHG排出量を以下のScope1、2、3の3つに区分しています。

当社では、GHG排出量の削減に向けて、事業活動を通して様々な課題に取り組んでいます。



### エネルギー原単位の削減

エネルギー原単位とは、ある一定の生産活動に必要なエネルギーの使用効率を表す単位で、製造業においては生産性の指標です。

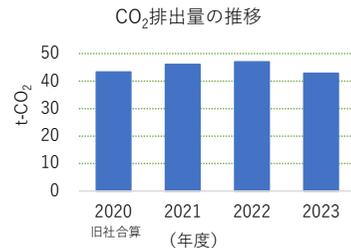
省エネ法で求められる1%以上削減を目標のところ、2023年度は全社として前年比1.1%削減を達成しました。今後も省エネ機器の導入、生産性向上などの省エネルギー活動を継続していきます。

エネルギー原単位	対前年度%
川崎工場	106.1
湘南工場	91.2
静岡工場	41.1
防府	85.8
本社	75.4
塩浜+大阪	109.5
<b>全社</b>	<b>98.9</b>

### CO<sub>2</sub>排出量の削減

2023年度CO<sub>2</sub>排出量は、2020年度比98.9%となりました。事業成長に伴い排出量も増え続けてきましたが、初めての反転となりました。

当社では、Scope1、Scope2のCO<sub>2</sub>排出量の削減対策として、生産性向上や太陽光発電の導入などに取り組んでいます。静岡工場ではソーラーパネルを設置し、再生可能エネルギーの利用を始めています。また、湘南工場では地球温暖化や環境問題を考える平塚市の取組み「ライトダウン平塚」に参加しています。



### Scope3排出量の削減

脱炭素社会実現に向けた動きが加速する中、企業は自社工場やオフィスだけでなく、サプライチェーン全体の温室効果ガス排出量の算定を求められるようになってきています。当社でもモーダルシフトを進めるなど、Scope3の排出量を算出し、サプライチェーン全体の温室効果ガス削減に向け取り組んでいます。

Scope3カテゴリー	2023年度 トン (CO <sub>2</sub> として)
1 購入した製品・サービス	197,041
4 輸送、配送（上流）	2,667
5 事業から出る廃棄物	4,030

## 大気汚染物質の削減

SOx、NOxは条例排出基準の規制値内の濃度でした。VOC（揮発性有機化合物）の大気排出量の削減に取り組んでおり、排ガス処理装置の老朽化更新や工程改善を行っています。

大気汚染物質の排出量(t)

	2022年度	2023年度
SOx	1	0.9
NOx	10	9
ばいじん	2	1
その他	-	0.2

## 水資源の保全

当社では2030年の水資源の削減目標を対2022年度比で2%としています。

2023年度は対前年比4.32%減少しました。タンクジャケット洗浄を行い熱交換率改善による冷却水量の削減や、排水していた冷却水を回収し、スクラバー希釈水として再利用するなど、水資源の保全活動に継続的に取り組んでいます。

淡水の使用量(m<sup>3</sup>)

2022年度	2023年度	対前年比%
2,646,232	2,531,808	-4.32

### 水質汚濁を防ぐための活動

工場排水処理設備を適正に管理することで、公共水域へのCODなど水質汚濁物質の負荷量を低減しています。

水質汚濁物質の排出量(t)

	2022年度	2023年度
COD	74	73
窒素	32	30
りん	1	1

## PRTR対象物質排出量の削減

「PRTR」とは、有害性のある多種多様な化学物質が、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを把握し、集計し、公表する仕組みです。

当社では、PRTR対象物質の排出量の削減に取り組んでおり、PRTR法（特定化学物質の環境への排出量の把握等および管理の改善の促進に関する法律）に基づき調査結果を国に報告しています。今年度は川崎工場でベントガスラインの溶媒回収装置へのつなぎ込みを行い、この効果によって大気への排出量を大幅に削減することができました。

PRTR対象物質排出量 (kg)

	2022年度	2023年度
大気	19,910	12,842
水域	1,072	1,028
土壌	0	0
移動量	1,367,255	824,390

## 産業廃棄物の削減

当社では2030年の産業廃棄物のリサイクル率目標を79%とし、様々な活動に取り組んでいます。2023年度のリサイクル率は67%となりました。引き続き製造プロセスの改善や内製化に取り組み、リサイクル率の向上を目指していきます。



## 2023年度のトピック

保安事故・重トラブルゼロの目標に対し、火災事故が1件発生し、目標未達でした。「火災事故は二度と起こさない」強い意志をもって全社で防災に取り組んでいきます。

## 保安防災の取り組み

### 火災事故対策

2024年3月に発生した製造設備での小規模火災事故について原因解析を行い、再発防止策に取り組んでいます。

人的、物的な被害はありませんでしたが、事故を風化させないため、毎月「安全・防災の日」を制定し、社内ポータルで保安防災にむけたTOPメッセージを配信しています。2024年度には外部機関の安全診断の受診など、社外の目線から当社の「安全」について考える機会を設けるなど、「火災事故を二度と起こさない」という意志をもって全社で保安防災の改善に取り組んでまいります。

### BCP制定

当社では火災や化学物質の漏洩、地震や津波、富士山噴火、近年大きな被害をもたらしている台風や相模川氾濫など、様々な災害に備え、BCP（事業継続計画）やアクションプランを作成して訓練を実施しています。2023年度は富士山噴火のBCPの見直しを行いました。

### 計画的な安全対策の実施

設備や機器の定期点検・修理や、作業環境改善対策は、計画的に実施しています。また設備の経年劣化対策についても、計画的に更新を進めています。

## 防災訓練の拡充

当社は4つの工場があり、各工場の特色を考慮した上で、火災や地震・津波発生、化学物質の漏洩などを想定した様々な訓練に取り組んでいます。また関係官庁や地域の防災協議会との合同防災訓練にも積極的に参加し、防災に対する意識の向上を図っています。訓練の結果を踏まえて、緊急時の対処が速やかに行えるように、アクションプランの見直しを行っています。

### 川崎工場



川崎臨海部防災協議会との広域防災訓練



千鳥地区防災協議会共同防災隊との防災訓練

川崎工場はコンビナート内に工場があり、川崎臨海部防災協議会が主催する「川崎臨海部広域防災訓練」への参加や、千鳥地区防災協議会共同防災隊との防災訓練に取り組んでいます。訓練は災害時における臨海部の混乱防止、関係機関の連携強化、効果的な情報連絡体制の確立等に役立てられます。

### 防府工場



南海トラフ地震を想定した避難訓練



防府工場は同じ敷地内にエア・ウォーターグループの関係会社があり、共同で訓練を行っています。南海トラフ地震を想定した避難訓練では、訓練用消火器を用いた消火訓練、避難訓練のマニュアル説明、非常用備蓄・AEDおよび担架の設置場所の確認を行いました。

### 湘南工場



地震・大津波防災訓練



消火栓取扱い訓練

湘南工場は避難者数が226名と多く、防災本部の設置、初期対応、安否確認など組織的訓練にも取り組んでいます。屋外消火栓の取り扱いでは放水圧力などを経験し、火災時に対応できるよう備えています。

### 静岡工場



化学物質漏洩訓練



危険物流出拡大防止訓練

静岡工場では、御前崎市危険物安全協会、御前崎市消防本部および御前崎市消防署合同による「危険物流出拡大防止訓練」に参加し、危険物施設から重油が漏洩した場合の、新野川から遠州灘への流出拡大防止について訓練しました。また製造時の静電気着火を想定した訓練や、化学物質の漏洩を想定した訓練を行い、もしもの時に備えた化学物質の取り扱いについて、訓練を重ねています。

## 2023年度のトピック

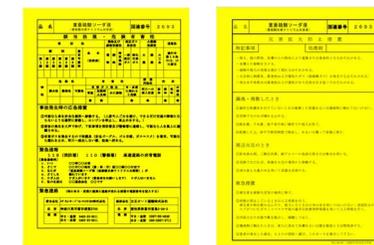
2022年度に多発した輸送業者関連のトラブル低減のため、輸送業者の指導・監視強化に取り組み、その結果、2023年度の車両物損事故件数は2/3に減少しました。

## 物流安全の取り組み

### 輸送業者の指導・監視強化

輸送業者の指導強化を目的として監査を実施し、物流安全・物流品質の向上に取り組んでいます。湘南では9社、川崎工場では5社に対して訪問監査を実施しました。また、トラブル発生時の責任区分を明確化するために各輸送業者と荷役協定書を取り交わすこととし、全社で展開中です。物流トラブルの削減のため、引き続き改善に向けた取り組みを推進していきます。

## イエローカード



イエローカード

「イエローカード」とは、化学物質の物流過程における安全性確保と事故時の適切な対応を目的として、輸送業者の連絡先や応急措置方法を簡潔にまとめたものです。当社では、化学物質輸送時の万一の事故に備え、輸送業者、警察、消防等の事故処理に関係する人々が安全に処置できるよう「イエローカード」を輸送業者に提供しています。

## 2023年度のトピック

品質重クレーム、重トラブルゼロの目標に対し、品質重クレーム1件、重不適合3件が発生し目標未達でした。顧客満足度の向上を目指し、優れた品質の製品を安定的に提供できるよう、今後も品質マネジメントシステムの継続的改善や教育・啓発活動に取り組んでいきます。

## 品質保証活動

全ての事業所で品質マネジメントシステムの国際規格である、ISO9001を取得し、品質管理や品質改善活動を推進しています。今後もお客様に満足していただけるよう、品質マネジメントシステムの継続的改善に努めていきます。

## 顧客満足向上への取り組み

当社では市場へ出荷する製品について、製品事故の発生を防止するため、設計開発の時点から関係部署で安全性をチェックし、関係部署長の承認を得て商品化するシステムを構築しています。新製品の製造開始時には、リスク把握としてFMEA（潜在的故障モード影響解析）を使用して不具合現象の発生を予防する検証を実施しています。日々の品質管理ではQC手法に加え、データの統計学的な解析に基づいて生産工程における問題を特定し、分析を行うSPC管理（統計的工程管理）を行い、品質の安定化を図っています。また、品質に影響を与える項目を変更する際は、4M変更として、品質・安全・環境・設備・化学物質管理影響の評価を実施しています。

## クレーム・トラブル削減の取り組み

前年度、業務委託先起因のトラブルが多かったため、業務委託先起因のクレーム・苦情低減のため、製造委託会社や運送会社、包材メーカーへの品質監査を実施し、過去トラブルの恒久対策実施状況の確認を実施しています。また、品質のさらなる向上のため、異物混入対策検討チームを組織し、混入原因の追究と対策に取り組んでいます。今後も引き続き改善を進めてまいります。

## 食品安全の取り組み

当社の食品添加物の製品をお客様に安心してご使用いただくために、川崎・湘南工場では「HACCP手法」に基づく食品安全衛生管理を実施しています。また湘南工場では「HACCP版食添GMP」を取得して食品安全衛生の取り組みを強化しており、主力製品の酢酸ナトリウムに関しては、「ハラル認証」を取得しています。

## 品質教育・啓発活動

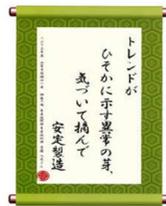
階層別品質教育プログラムにより、QC 7つ道具、衛生管理などの品質教育を25講座展開し、品質レベルの向上・製品事故の予防に向けて活動しています。

また、過去のトラブル再発防止のため、トラブルカレンダーを全社で共有しています。

毎年11月に「品質月間」を開催し、品質意識向上の啓発活動を行っています。

「品質月間」では、クレーム・不適合の1年間の集計結果報告と、品質に関する標語の募集、そして11月は「計量強調月間」に合わせた社内イベントを開催しました。

品質に関して幅広く考える機会としています。



2023年度  
一席入選標語

## 2023年度のトピック

2022年度より順次改正・施行されている化管法、安衛法の対応を進めました。

各法改正では対象となる化学物質や通知・掲示事項等が増大するため、新たに法令対象となる化学物質の確認を行い、掲示物やSDSの見直し、リスクアセスメント等への対応を進めました。また化学物質関連法令の遵守のため、新規化学物質の取り扱いや4M変更時の関連法規のチェックリストの作成・更新を行いました。

## 化学物質管理

## 化学物質管理の全体像

当社では、新製品の設計段階から、法規制のチェックや環境への配慮に努めています。新規に取り扱う化学物質については、新規化学物質導入申請制度を設け、安全性事前評価を実施し、製品への使用禁止や使用制限物質の意図的混入を防止しています。また自国のみならず将来国外への輸出が想定される製品については、各国の法規制等の調査を実施し必要な対応を検討しています。原材料の化学物質の安全性に関する情報を調達先から入手・管理し、これら化学物質の保管、取り扱いなどに活かしています。そして安全に当社の製品をお使いいただくために、お客様へ適切な情報提供を行っています。

## 化学物質リスクアセスメント

当社は様々な化学物質を取り扱っており、化学物質の新規導入時や毎年の定期的見直しでリスクアセスメントを実施しています。作業者の健康に悪影響を与える化学物質の有害性リスクと、爆発・火災など製造プロセスに伴う危険性リスクを評価し、必要な対策を講じることで、化学物質による労働災害リスクの低減を図っています。2024年度からはリスクアセスメントの対象物である化学物質を製造、取り扱い、譲渡提供するすべての事業場において「化学物質管理者」と「保護具着用管理責任者」の選任が義務化されるため、各事業所で講習を受講して選任を進め、法令に則り化学物質の管理を行う体制を整えました。

## 化学物質教育

化学物質リスクアセスメント、保護具、危険物・毒劇物・有機則・がん原性・変異原性該当物質の危険性などについて、毎年定期的に教育を実施し、化学物質の適切な取り扱いと事故や災害の防止を図っています。

## 製品安全

当社の製品を安全に取り扱っていただくため、安全データシート「SDS」を当社のホームページで公開し、危険・有害性情報を提供しています。

また、人や環境に有害な化学物質が製品中に含まれないようにするため、製品含有化学物質の情報伝達に関しては、経済産業省の主導で構築された「chemSHERPA」を提供しています。

## 掲示物の見直し

改正有機則、改正特化則の対応として、屋外タンク等の掲示物の見直しを行いました。

特定の有害物を取り扱う場所で、有害物により生じるおそれのある疾病の種類およびその症状や保護具について記載し、改正内容に則した掲示物へ内容を見直したうえで、見やすい場所へ掲示して有害性等を周知しています。



防府工場  
アンモニアタンク  
掲示物見直し

RC活動のホームページ掲載の継続と、工場周辺の自治会との交流、近隣企業が参加する各種協議会に参加してコミュニケーションに努めました。会社を取り巻く様々なステークホルダーの中でも、特に地域社会との関わりを重視し、地域社会に少しでも貢献できるような活動を続けています。

## 情報公開



エア・ウォーターグループは、2021年8月に金融安定理事会（FSB）により設置された「気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）」の提言への賛同を表明しており、提言に沿って2022年3月に情報を開示し、毎年更新を行っています。



また当社では、ホームページ上で製品のSDSを公開し、製品安全について社会との対話を図っています。

## 川崎工場

毎月当社のホームページに、川崎工場の産業廃棄物焼却設備の維持管理情報を掲載し、情報の公開に努めています。



## 献血



## 本社・湘南工場

本社と湘南工場では、毎年2回、神奈川県赤十字血液センターからの要請に応じて、献血を実施しています。

## 環境美化・保全事業



## 防府工場

防府工場では年に一度、正門周辺側溝の掃除と、除草作業を行っています。一生懸命作業し、地区の環境美化に力を注いでいます。

## 湘南工場



湘南工場では、公害の防止や地域環境保全を目的に設立された「平塚地区環境対策協議会」の一員として、相模川の河原にあるひらつかアリーナ公園で地域の小学生とチューリップの球根植え付けや河川敷の清掃活動を行っています。

## 静岡工場



静岡工場では、「新野川・箴川の自然を守る会」に参加し、環境美化活動やメダカ事業に参加し、地域の環境美化に貢献しています。

## 給食支援



社内のコミュニケーション活性化のため、チームワークアプリRECOGを導入し、thank youレターを贈る「ホメ活」を推進しています。RECOGから送ったレターの数に応じて国内外の子供たちへ給食が届けられるようになっており、2023年度は発展途上国の子供たちへ33食、令和6年能登半島地震の緊急支援として11食の給食が届けられました。

## 防災備蓄食料の提供



## 湘南工場



湘南工場で保管していた防災備蓄用の非常食7品目・2,391個を、NPO法人である日本もったいない食品センターに寄贈しました。寄贈した食品は、生活困窮者の支援に役立てられます。

## 地域防災



## 湘南工場

湘南工場は、津波災害が想定される場合、鉄筋コンクリート4階建ての社宅を、津波避難ビルとして地域の方々に提供する協定を平塚市と結び（2012年2月15日）、社宅や独身寮の敷地の一角を、自治会の防災備品倉庫の設置場所として提供しています。また、社宅にAEDを設置して地域のみなさんにも緊急時に利用できるようにするなど、地域のみなさんと共に、地域の防災に取り組んでいます。

## 地域とのコミュニケーション



## 湘南工場

湘南工場周辺の自治会と定期的に交流会を開催して、当社の環境への取り組みを説明し、意見交換を行っています。また、自治会消防訓練や美化活動など参加したり、地域とのコミュニケーションを大切にしています。2023年度は湘南工場内で「秋祭り」を開催し、地域の方々に招待して交流を図りました。

## 防府工場



防府工場では、防府市立の科学教育施設で開催される「サイエンスアカデミー」に参加しています。2023年度はコロナで実施できませんでしたが、例年は毎年夏休みに合わせ、子供向けに科学を楽しく学習する体験型教室を開催しており、隣接する企業と共同で、エア・ウォーター防府工場の液体窒素を用いた「マイナス196℃の超冷たい世界体験」という教室を開いて科学の楽しさを伝えています。

## 湘南ベルマーレ応援



当社は、平塚市にホームを置くサッカークラブ「湘南ベルマーレ」を、サポートコーポレーションとして応援しています。ベルマーレのホームグラウンドで開催された試合を観戦し、多くのサポーターと共にベルマーレを応援しました。





地球の恵みを、社会の望みに。

 **エア・ウォーター・パフォーマンスケミカル**

**問い合わせ先** エア・ウォーター・パフォーマンスケミカル株式会社  
RC本部 RC推進部  
〒212-0014 川崎市幸区大宮町 1310 番 ミューザ川崎セントラルタワー  
TEL : 044-540-0110 FAX : 044-540-0109

**ホームページ** <https://awpc.co.jp>